

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

令和2年度 前期学校教育アンケートの結果を振り返って

	質問項目	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
		重要度	重要度	実現度	実現度	実現度
①	じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりきいたり、はっぴょうしたりしている	97	100	89	75	100
②	ともだちときょうりよくしてべんきょうしている	98	100	88	82	86
③	いえでかならずしゅくたいやじしゅがくしゅうをしている	99	100	95	83	100
④	ほんをよくよんでいる	98	100	81	53	86
⑤	まわりのひとにすすんでいさつしている	100	100	80	81	95
⑥	やくそくやきまりをまもっている	100	100	94	91	95
⑦	はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりたべている	99	100	85	77	95
⑧	すすんでうんどうしている	98	100	86	66	77
⑨	ともだちとなかよくあそんでいる	98	100	96	92	95
⑩	いえのひととよくはなしている	100	100	96	91	95
⑪	こまったくときはせんせいにそだんしている	98	100	76	82	95

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。夏休み前にご協力いただきました学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

学校教育目標『夢に向かって輝く、竹田っ子～「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」をめざして～』を具現化するために、昨年度より学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふりかえることができる項目・内容をたずねる形式で実施しています。

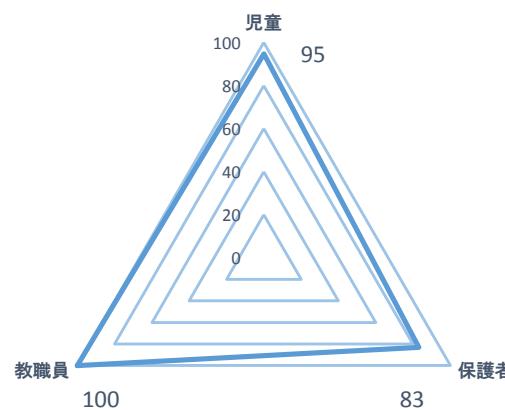
学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、重要度(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、実現度(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割合で表しています。

重要度の集計結果から

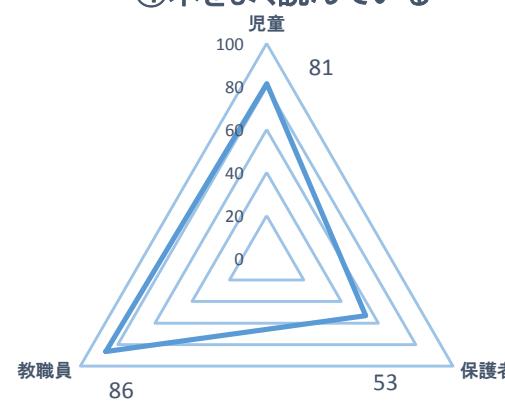
【保護者・教職員のみ】

保護者の方は、全項目で97%から100%の重要度でした。質問項目⑤あいさつについての質問では、ここ数年100%を保っており、学校、地域を挙げて高めていきたい項目と言えます。教職員は、全項目とも100%でした。

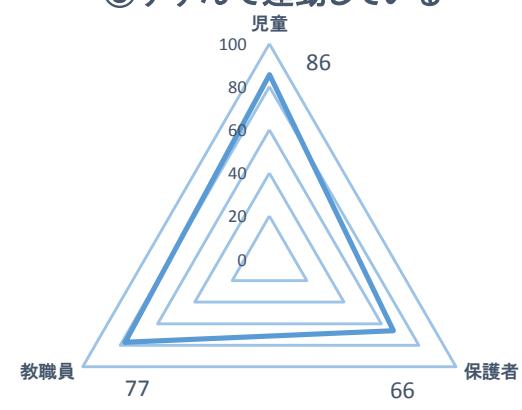
③家で必ず宿題や自主学習をしている



④本をよく読んでいる



⑧すすんで運動している

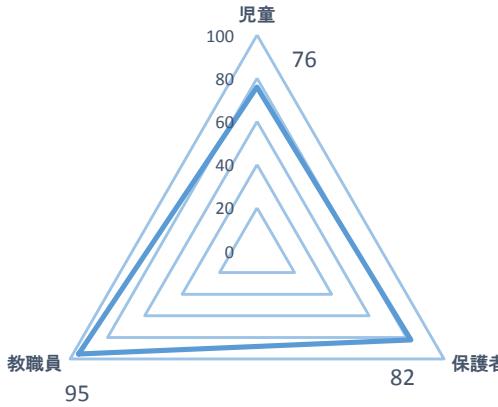


子どもたちの実現度は95%，保護者は83%と、差が大きい点に注目しています。これには単に宿題をしているかどうかだけでなく、子どもたちが主体的に宿題に取り組めているのかという点が課題になっているのではないかと考えます。保護者の皆さんの日々の声掛けによって、ようやく子どもたちが宿題を始めたり、言わないとしてもかったりというような姿があるのではないかでしょうか。今後、実現度を高めるためには、課題の出方をより明確にして、学校でも家庭でも、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組むよう、働きかけを続けていきたいと思います。

今年度は新型コロナウィルスの影響で、未履修対応型の時間割となり、朝読書の時間を授業時間にあて、図書室の利用も1学期は制限する等しました。結果として、学校で子どもたちが本に親しむ時間が減り、教職員は86%。家庭の実現度も53%になるなど、例年と比較し、大幅な減少につながりました。しかし、9月より委員会活動が始まり、図書に関わる活動も計画されています。この家庭でも、子どもたちが読書に親しむ働きかけを今後もお願い致します。

新型コロナウィルスの影響で、休み時間の遊び方や体育など、子どもたちが運動する機会が制限されることになりました。例年と比較し、実現度は大きく減少していることが分かります。しかし、2学期から制限が少しずつ見直され、子どもたちが元気に運動場で体を動かす姿が見られます。今後も、活動前後の手洗いやマスクの着用など感染拡大防止に努めながらも、子どもたちが運動する場の設定を工夫していきます。

⑪困ったときは先生に相談している



自由記述欄から

(いただきました全てのご意見は教職員全員で共有しております。)

今年度は、新型コロナウィルス対策で、学校教育活動においてもご不便をおかけしております。特に、「家庭学習の進め方」や「運動不足」など多くの課題があるという現状の下、学校の取組にたいして温かいお言葉を多数頂戴し、感謝致しております。今後は、子どもたちの学校の様子を見てもらえる機会を設けていきたいです。

学校運営協議会理事会より

3ヶ月の臨時休業を経て、子どもたちがようやく学校に行くことができ大変うれしく思います。外出を控え、周りとのかかわりを制限されていた子どもたちが、再び学校で友達や教職員と多くのことを学んでほしいと思います。アンケートでは困ったときに相談する実現度が低いようです。成長段階によって伝えられない悩みもあるかもしれません、家族や先生方をはじめ地域が一体となって子どもたちを見守っていきたいと思います。

学校教育アンケート全体を通して

今回は、臨時休業期間を終え、新しい生活様式へと社会が大きく変化していくこうとする最中のアンケート実施となりました。結果を見ると、昨年度より実現度が大きく下がったという項目がいくつかありました。そして、保護者アンケートの記述からは、「子どもたちの学校の様子をもっと見たい」という声を多数いただきました。2学期は、運動発表会や、11月の授業参観など、新型コロナウィルス感染症拡大防止への対策を進めながら、可能な形で参観を実施していきますので、どうぞよろしくお願いします。

また、大人も子どもも悩みを1人で抱え込まないように学校教育活動の中でもサポートしていきたいと考えています。例えば、火曜日にはスクールカウンセラーに来ていただいていますので、必要があればご連絡ください。今後も家庭と学校とが連携し、子どもたちの理解と共に、子どもたちへの関わり方や、よりよい働きかけについて、一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

子どもたちの実現度は高学年になるとほど、減少する傾向があります。例年は、授業で話し合い活動を多く設け、自身の困りを伝えたり、協力して考えることを通して、友達同士のつながりを深める取り組みをしてきました。しかし、今年度は感染症対策のため、例年と同じように実践することが難しい状況です。大人も子どもも、人との距離間に戸惑いを感じる現状です。子どもたちが1人で悩みを抱え込むことがないように、学校でも複数の教職員の目で見守っていきたいと思います。